

Press Release

2013年9月17日

メドピア株式会社

「術前の出血時間検査の実施」について 半数近くは不要と考え、検査を実施していない

医師約6万人が参加する医師専用サイト「MedPeer」（メドピア、<https://medpeer.jp/>）を運営するメドピア株式会社<東京都渋谷区、代表 石見陽（医師）>は、会員医師を対象に「術前の出血時間検査の実施」についてのアンケートを実施し、以下のとおり、結果を取りまとめました。

医師専門サイトMedPeer調査結果：「術前の出血時間検査の実施」について（総回答：3,047人）

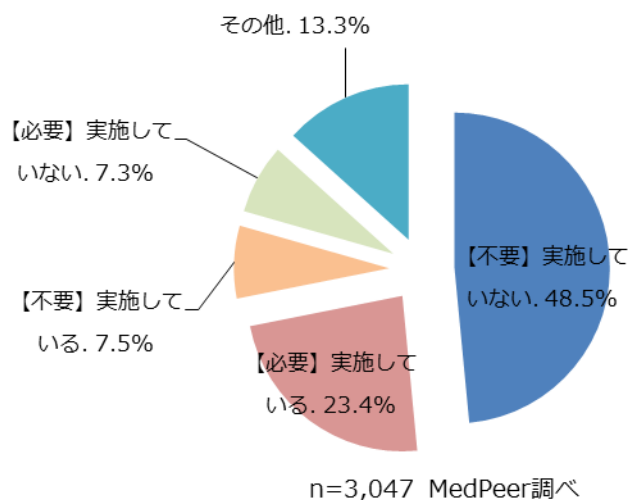
順位	回答	回答数（人）	占有率
1	【不要】実施していない	1,477	48.5%
2	【必要】実施している	713	23.4%
3	【不要】実施している	230	7.5%
4	【必要】実施していない	221	7.3%
5	その他	406	13.3%
-	合計	3,047	100.0%

サマリー：

- 医師専門サイトMedPeer（メドピア）に登録する医師（6万人以上）を対象に「**術前の出血時間検査を実施していますか？**」という質問をしたところ、**3,047**件の回答が寄せられた。
- 「【不要】実施していない」という回答は48.5%で、5～10年前から実施していないという声が散見される。「検査者によって結果がまちまちで信頼性がない」「PT、APTTだけで問題ない」といった声が多い。
- 「【必要】実施している」は23.4%で、全体の4分の1以下。「ルーチンで実施している」「PT、APTTだけでは、血小板機能の低下による出血傾向を見逃す」という意見があった。
- 「【不要】実施している」は7.5%。ルーチンで実施していても「あまり参考にしていない」「役に立ったことは一度も無い」という回答があった。

- 「【必要】実施していない」は7.3%で、「小手術なので実施していないが、中大手術には必要」「患者によっては有用な情報がえられる」といったコメントがあった。

▼総合結果



回答コメント（回答一部を抜粋）

「【不要】実施していない」 1,477件

- ・ 正確に測定するのが難しいので不要と思います。(40代、神経内科)
- ・ 5年ほど前まで施行していましたが、検査者によって結果がまちまちで信頼性がなく、中止となりました。(30代、循環器内科)
- ・ PTINRなど凝固系検査はルーチンですが、特殊な場合を除いて出血、凝固時間は省略しています。(50代、一般外科)
- ・ 院内で話し合って5年ほど前に中止しましたが、特に問題はありません。(50代、消化器外科)
- ・ 実施しなくて困ったことはありません。検査技師さんの負担も大きいと思います。(40代、脳神経外科)
- ・ 以前はルーチンにやっていたのですが、今は凝固能検査で十分と思います。(60代、一般外科)
- ・ 通常の症例では血小板数、PT、APTTだけで問題ないと思う。(50代、産婦人科)
- ・ 特殊なケースを除き、10年程前から実施しなくなりました(50代、脳神経外科)
- ・ 小手術ばかりなので、出血も少ないためしていません。(60代、形成外科)
- ・ 20年前の研修医の時はルーチンだった。この10年は勤務している病院のポリシーがあり、実施していない。そのことで大きな不具合を覚えたことはない。(40代、脳神経外科)
- ・ 特別な病気がないか、ワーファリン内服の問診だけで、あとは血算の検査だけです。(50代、整形外科・スポーツ医学)
- ・ 出血時間は、傷の付け方で、いくらでもかわるため、信頼性がないとのことで当院では以前に廃止されました。(40代、血液内科)

「【必要】実施している」 713件

- ・術前ルーチン検査として今でも施行している (50代、一般内科)
- ・出血時間は in vivo で出血傾向を把握できる検査と考えております。また潜在的な von Willebrand 病や血小板機能異常症をスクリーニングできるので必要と考えます。(50代、一般内科)
- ・ほかの検査で代用はできません。実際出血時間のみが異常となる疾患もあり、やってよかったと思ったこともありました (30代、一般外科)
- ・術前に検査しておいてよかったことがなんとなくあった。一般論で言えば不要だが、稀にいる患者のために検査をしている。(30代、一般外科)
- ・出血時間の検査は、簡単に血小板機能を調べることができるため、ルーチン作業として必要。(60代、一般外科)
- ・抗血小板薬投与中患者が多いので、行っています。本人が抗血小板薬服用中であることを把握できないこともありますので。(50代、一般外科)
- ・頻度は低くても重大な出血傾向を呈す症例のスクリーニングに有用ではないでしょうか。(50代、整形外科・スポーツ医学)
- ・無ければ手術が出来ないかという、そうでもないが、一旦、事故などが起こった際には、行っていないとなぜしていないということになると思われ、行なっています。(40代、一般外科)
- ・PT、APTT だけでは、血小板機能の低下による出血傾向を見逃すので、私は行っています。(50代、産婦人科)
- ・結果により麻酔法、手術後の鎮痛法が変わりますので、必要だと思います。(60代、麻酔科)

「【不要】実施している」 230件

- ・一応していますがあまり参考にしていません。(30代、呼吸器内科)
- ・検査技師の手技によってばらつきの多い検査なのであてに出来ないとおもっていますが、病院の方針としてこの検査をやらなくてもよいという見解は確立していないので惰性で続けています。(40代、耳鼻咽喉科)
- ・不要と考えるが、他の検査法で見逃した出血傾向を予見しえた経験あり、やめられない。(60代、一般外科)
- ・25年前から実施しているが、役に立ったことは一度も無い。でもなんとなく止められない。(50代、産婦人科)
- ・クリニカルパスに組み込まれているので検査は行つが、不要と思う。(40代、消化器内科)

「【必要】実施していない」 221件

- ・簡単に実施できる検査であるので、可能ならば実施すると良い。ただ私の診療所で取り扱う小手術では、実施していない。(70代、一般内科)
- ・心カテやペースメーカーの小手術なので実施していませんが、中大手術は必要かと思えます。(30代、循環器内科)
- ・手術のときなど、緊急で調べたいのであれば有用かと思えますが、いつでもできますし。(20代、眼科)
- ・誤刺の危険があるので中止になりましたが、とりあえずのスクリーニングにはよかったと思えます。アスピリン飲んでる人が見つかったり。(40代、一般内科)
- ・テクニカルエラーが頻出したため廃止しましたが、患者によっては有用な情報がえられることがあります。(40代、麻酔科)
- ・抗凝固薬や抗血小板薬の内服の有無を確認し、CBC で血小板数を確認している、耳朵を切る出血時間測定は out of date の検査で実施していない。(50代、脳神経外科)
- ・数年前に各病院で検査の適正化と称し、出血時間が削除された。しかし、この検査を省いてしまうと、フォンビルブランド病などは、スクリーニングできない可能性があると考えます。(40代、整形外科・スポーツ医学)

「その他」 406件

- ・クリニックで小手術のみで出血時間の測定はしてない。(50代、一般内科)
- ・行っている科(少数派)と行っていない科(多数派)がある。(50代、麻酔科)
- ・抗血小板薬を長期間に内服していた方のみ測定するようにしています。術者も患者さんもある程度安心できるので。(40代、泌尿器科)
- ・患者さんの状況に応じ、必要なら実施する方向で行います。(50代、救急医療科)

※調査方法

□期間：

2013年8月6日（火）～ 2013年8月12日（月）

□有効回答：

3,047人（回答者はすべて、医師専門サイトMedPeerに会員登録をする医師）

□設問：

医師専用サイト MedPeer内の「ポスティング調査」コーナーにおいて、MedPeer事務局（運営：メドピア株式会社）より、以下の質問を投げかけました。

調査フォーム（設問文 抜粋）

出血時間の検査は、簡単に血小板機能を調べることができるため、長期にわたり術前のルーチン作業として採用されてきました。しかし、精度が低く信頼性に問題があることから出血時間検査を廃止する病院が増えてきていると聞きました。

皆さまは出血時間検査は必要だと思いますか。また皆さまの病院での実施状況はいかがでしょうか。以下の選択肢より適当なものをご選択いただき、その理由をコメント欄にご記入ください。

1. 【必要】実施している
2. 【必要】実施していない
3. 【不要】実施している
4. 【不要】実施していない
5. その他

【本件に関するお問い合わせ先】

メドピア株式会社 管理部 TEL：03-6805-0345 / e-Mail：info@medpeer.co.jp

【記事掲載に際してのお願い】

- ・「医師専用サイト MedPeer 調べ」、であることの明記をお願い致します。
- ・web 上での引用に際しましては、<https://medpeer.jp> へのリンクをお願い致します。

■ MedPeer（メドピア）とは - 2013年7月末日時点 -

MedPeer は、メドピア株式会社が運営する、医師専用のインターネットサイトです（URL：<https://medpeer.jp/>）。会員医師同士による情報共有サービス「薬剤評価掲示板」や、特定疾患治療に関するエキスパート医師による情報提供「Meet the Experts (MTE)」、有名臨床指定病院の所属医師参加のオンライン症例検討会「インタラクティブ・ケース・カンファレンス」などを MedPeer 上に設け、「臨床の決め手がみつかるサイト」として、多くの医師に利用されています。現在の会員は6万人以上で、日本の医師の約4人に1人が利用するサービスです。また、「薬剤評価掲示板」では、約1,700の医療用医薬品に対して、25万件以上の医師会員による処方実感、クチコミ評価が投稿されています。

以上